

平成 25 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」（地域会議）

1 対 1 対談（四日市市） 会議録

1. 開催日時：平成 25 年 7 月 4 日（木）10 時 45 分～11 時 45 分
2. 開催場所：四日市市文化会館 展示棟 1 階 ロビー
3. 対談市長名：四日市市（四日市市長 田中 俊行）
4. 対談項目：
 - （1）近鉄線内部・八王子線への支援について
 - （2）児童発達支援センターあけぼの学園移転整備にかかる支援について
 - （3）都市制度改革に伴う中核市への移行について
 - （4）国体を見据えた総合体育館整備について

5. 会議録

（1）開会あいさつ

知事

本日は、大変お忙しい中に田中市長におかれましてはお時間をいただきましてどうもありがとうございます。

田中市長とは、この 1 対 1 対談をやらせていただくのは今年で 3 回目でございますが、この 1 対 1 対談というのは、主には来年度の予算に向けて、その予算編成の始まる前に、私が市長、町長の皆さんとお話させていただいて、来年度どういう予算をつくっていくかというようなことがメインの課題であるものの、一方で様々に当面の今すぐ手を打たなければならない課題、あるいは中長期に考えていかなければならない課題、そういうのも多岐に渡ってあると思います。そういうのを市民、県民の皆さんの前でオープンに議論をすることで、それぞれ市民、県民の皆さんにも課題を共有していただき、行政だけでは解決に向かえない物事もありますから、そういう市民、県民の皆さんの協力のもと、我々ももちろん一所懸命汗をかいて一緒に頑張っていく機会にできればと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

併せて、田中市長には本当に大変お忙しい中に、三重県の市長会の会長もお務めいただき、それぞれに市の課題がある中で、それをおまとめいただくリーダーシップを発揮していただいておりますことも、改めて感謝申し上げます。今日の挨拶としたいと思います。

どうぞよろしく申し上げます。

四日市市長

今年もこうやって知事と 1 対 1 対談を設けていただきまして、本当にあり

がとうございます。

昨年は、開館 20 周年を迎えた博物館で開催をさせていただいて、ちょうど対談後、間もなくですが、入場者が 200 万人目を達成しまして、この 1 対 1 対談のおかげで、私もたまたま居合わせたということで、200 万人目の方に記念品や花束を渡す機会が私のところに回ってきましたので、大変ありがたく思っております。

今年の会場の文化会館は、ちょうど昨年 30 周年を迎えたばかりで、記念事業もやりました。ハード面でもこのエレベーターを設置してバリアフリー化を図ったということと、吊り天井をリニューアルして、耐震化を図りましたし、それから、床やクロスのリニューアルも同時に図ったところです。また、30 周年ということで四日市市の第 1 回の文化功労者であります彫刻家の片山義郎氏の作品を展示をさせていただくことになりました。今後、知事もこの四日市市文化会館をご利用になる機会も多いかと思しますので、ご承知おきをいただきたいと思います。

今日は、発言に入る前に一言お礼を申し上げたいのですが、昨年要望させていただきました鹿化川の治水対策につきまして、早速、浚渫をしていただきました大変感謝をしております。ここ 2 年ほど大雨により避難勧告が発令される状態までいっておりますので、今後も継続的にこの鹿化川の治水対策につきまして、ぜひ、県の管理河川として改修に向けてご努力をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

(2) 対 談

1 近鉄線内部・八王子線への支援について

四日市市長

それでは、早速、1 つ目のテーマから発言をさせていただきます。1 つ目は、公共交通政策の中でも非常に四日市市にとって大きな課題になっております近鉄の内部・八王子線の存続支援について、県にぜひご支援をお願いしたいと思います。

ご承知かと思いますが、この路線の事業者である近畿日本鉄道は、仮に鉄道で残すのであれば、鉄道施設や土地などを行政が保有する公有民営方式に転換をしたうえで、経営赤字の全額補填・補助を受けなければ、鉄道という形での継続は困難であるという立場を一貫して取っておられます。

四日市市としては、今後の少子高齢化社会における公共交通の重要性を強く認識をして、何とか鉄道の形で存続をさせたい。そして、鉄道駅を拠点としたまちづくりを進めていきたいという強い想いを持っております。そのことは、四日市市の総合計画なり、あるいは四日市市の都市総合交通戦略の

中に明確に位置づけをしております。

そのためには、今後必要となる車両の更新であるとか、施設の更新に対して国の補助スキームを活用した支援が必要不可欠と考えておりますが、そのうえで、さらに国の補助スキーム以上の負担も鉄道として残すためには必要かもしれない、そういうことも視野に入れながら、近鉄さんと今、協議、交渉を継続しているところです。

知事もご存じのとおり、この近鉄内部・八王子線というのは、通勤、通学、高齢者の方々をはじめとして、年間 363 万人の方々に利用されております。沿線には県立高校 3 校、県立の特別支援学校、私立の中学・高校、合わせて 5 校が、立地をしております。四日市市内のみならず、近隣の鈴鹿市、亀山市など市外からも多くの学生さんに利用されておりますし、さらに内部・八王子線は、四日市市内にレールのある路線ではあるものの、利用者の約 75% が近鉄名古屋線の四日市駅を経由して、名古屋へ行ったり津方面へ行ったり乗り継ぎの利用者が 75%ということから、利用実態としては非常に重要な地域の路線であると考えております。この鉄道があることで、この沿線の地域が発展してきたという歴史もあり、また、同時に全国的に非常に珍しいナローゲージであることから、私は、産業文化とか産業観光といった視点からも貴重な地域にとっての資源であると考えております。

昨年度、四日市市の自治会連合会はもちろんですが、鈴鹿市さんの連合自治会あるいは高校の関係者の方々がしっかり努力をしていただいて、この内部・八王子線の存続を求める 17 万人を超える署名を集めていただき、直接、近鉄の本社に手渡されて存続を強く要望されました。

また、四日市市の市議会におきましても特別委員会を設置し、この存続を求める提言がなされておりますし、市議会、市民の皆さん、行政が一体となってこの内部・八王子線の存続を求めながら、今、行政が近鉄との交渉を継続中という状況であります。

前回から県の担当部局の方にも近鉄との交渉に参画をしていただいておりますが、大変感謝をしておりますが、ぜひ、国の補助スキームに基づく県の支援負担はもちろんですが、今後、更なる支援策につきましても、前向きにぜひ検討していただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

この件についての知事のご意見を伺いたいと思います。

知 事

今、市長から内部・八王子線のお話をいただきました。今日は見ていただいている方もいらっしゃるのですが、公共交通、バス、鉄道に限らず、今までは路線を撤退する場合は、バスも鉄道も許可制だったですね、国

に対して。それが届出制でいいようになったということで、民間事業者が撤退しやすい状況に規制緩和によってなった。この規制緩和がいいのかどうかは、本当に国全体の議論があると思います。

その一方で、ご案内のとおりの子少化、車社会の進展で公共交通機関の経営状況は大変厳しい。併せて、県、国、基礎自治体も財政状況が大変厳しい状況にあるということだと思います。一方で内部・八王子線、先ほど市長からもありましたように、県立高校の子たち、あるいは私立学校の子たち、合わせると 3,500 名ぐらいの生徒が沿線にいると思います。特に県議会でも沿線である四日市南高校の卒業生の議員の方を中心に、県議会でも一般質問等でご質問をいただきましたし、去年は 17 万人の署名が集められています。四日市市の皆さん、あるいは鈴鹿市なども含めた想いというのを私どもに届けていただいているところです。

地方鉄道の支援では、現在、三重県では国と協調していろんな設備整備の協調補助をやっている現状であります。そんな中で今回の内部・八王子線の部分につきましては、5月28日に市から要請を受けてその協議に我々も参画をさせていただきました。

一方でタイムリミットがあるというようなこともあります。したがって、我々も市さんと共に知恵を出し、鉄道として存続するための知恵出し、議論の加速化をしていきたいと思っております。デリケートな問題なので、議論の過程をすべてオープンにできないと僕は思っていますので、四日市市さんと近鉄さんがお話されるものにしっかり我々も協議に乗って、タイムリミットが迫ってきております、先日、市長も会見で今月いっぱい山と言っていたので、我々も認識をしていますので、鉄道として存続していくための知恵出し、議論の加速化、我々もしっかりやっていきたいと思っております。

四日市市長

知事のほうからも鉄道としての存続に向けての支援を惜しまないという趣旨のご発言をいただきましたので、大変心強く思っております。先ほども言いましたように、鉄道敷としては四日市市内にとどまりますが、利用者は複数の自治体に渡るといったことですので、広域自治体である県に知恵も力もぜひお借りしたいと思っておりますので、今後、四日市市が近鉄さんと交渉していく中で、交渉にも参加をしていただき、同時に支援のあり方についても、枠組みについてもお知恵を出していただけて、何とかいい結果が生み出せるように支援の拡充を重ねてお願いをしておきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

2 児童発達支援センターあけぼの学園移転整備にかかる支援について 四日市市長

2つ目は、児童発達支援センターあけぼの学園の移転整備についてでございます。このあけぼの学園は、発達に課題のある子どもさんの早期療育、保育、それから、保護者の方への相談機能といったことを行う場として、四日市市と三重郡を中心に障がい児支援の拠点として運営をされている施設でございます。昭和36年に開設し、現施設は昭和54年に建設をされており、建物も非常に老朽化してきております。

そこで、三重県立特別支援学校である北勢きらら学園の隣に、四日市市の所有する土地がございます。その社会福祉事業用地にあけぼの学園を移転整備する計画の策定作業を今進めているところです。

一方で児童福祉法の一部が改正をされて、障がい児支援を強化するために、従来の障がいの種別に分かれた施設の体系が一元化されると同時に、新たな事業が法律でも位置づけされました。

そこで、整備にあたりましては、この児童福祉法の改正に対応しつつ、より良い療育環境を整えるという意味で、このきらら学園に隣接したという非常に有利な立地条件を生かした連携を図ることで機能強化を図っていききたいとも考えております。方向としては、福祉医療ゾーンという形で整備をしていきたいと、そんな思いで今検討をしております。

このあけぼの学園は、四日市市のみならず三重郡における障がい児の療育、あるいは福祉の重要な拠点であるのは先ほど申し上げましたが、三重県におかれましても、施設整備におけるハード面や専門性を持った人材の育成や派遣、特に全国的に非常に少ないと言われている医師、特に小児精神科の医師の派遣制度の確立といったソフト面も含めて、ぜひ支援をお願いしたいと思っております。

この点についても知事のお考えをお伺いしたいと思っております。

知 事

発達に障がいのある子どもたちの支援については、私自身も知事になってからもそうですし、その前もそうですが、想いを持って取り組んで来たつもりであります。例えば、ご案内のあすなろ学園であります。あすなろ学園は、全国で今は2つになりましたが、23年度までは全国唯一の児童精神科の専門の医療施設を兼ねた施設でありまして、それが今、新規外来の予約が6ヶ月待ちというのがありますので、隣の県内唯一の肢体不自由のリハビリである草の実リハビリセンターと統合したうえで、平成29年度にこども心身発達医療センター（仮称）というのを、60億円ぐらいかかりますが、整備をす

るという決断をさせていただきました。今、それに向けて準備をしているところです。そこにももちろん今津市の小中学校の分校となっている特別支援学級も特別支援学校として新たに整備するということも含めて、子どもたちの発達を支援していく場にしていきたいと考えているところです。

そんな中で、今回のあけぼの学園の関係ですが、ソフト面の話からさせていただきますが、西日野にじ学園とも近いというのもあって、西日野にじ学園、北勢きらら学園で毎年あけぼの学園の保護者の皆さんによる見学会をやらせていただいたりしています。

そんな中で、西日野地区が近いので西日野にじ学園とは結構いい連携があると思います。今後、移転先のきらら学園との連携に向けて、我々もしっかり特に強化していきたいと思います。

その中で引継ぎというのが結構重要だと思いますので、県ではパーソナルカルテというのをやっていますが、四日市市さんでも相談支援ファイルというのがあります。これは同じ機能でしっかり途切れのない支援をしていこうということで、幼小中高とずっと一つのファイルでしっかり支援をしていこうという趣旨のもので、その連携を図って、しっかりあけぼの学園から北勢きらら学園に円滑な就学が可能となり、かつ、子どもたちの支援がしっかり途切れなく引き継ぎされていくような部分の支援を、しっかり県教育委員会が中心になって四日市市さんと連携してやっていきたいと思っています。

それから、あけぼの学園、先ほど申し上げた草の実リハビリテーションセンターの整形外科医が、昨年度で訪問回数7回行かせていただいて、いろんな療育についての相談を現場で受けるような形をさせていただいています。25年度も7回予定をしていますので、そういうのをしっかり移転しようがしまいが継続をして、市でやっていただくあけぼの学園におけるリハビリなどの医療サポートが後退しないように、我々としてもしっかり草の実リハビリテーションセンターの部分での地域療育の支援をしていきたいと思っています。

それから、本当はあすなろ学園のほうでもそういう形でやればいいんですが、先ほど申し上げたようにあすなろ学園自体は、新規外来の予約待ちが6ヶ月程度というような状況なので、あすなろ学園の児童精神科の医師がたくさんお伺いするのは難しい状況なので、四日市市近郊でも日永さんとか、あるいは菰野ですけどあさけ診療所とかで心身発達の対応ができる医療機関がありますので、そういうところとのネットワーク構築で医療部分での漏れがないような支援を我々もしっかりしていきたいと思っています。

併せて四日市市さんが発達総合支援室をつくっていただいて、発達障がい

児支援の専門家を養成していこう、あるいは、保育士の皆さんにそういう勉強をしていただくという取組をしていただいています。23年度に四日市市の保育士さんが来ていただきましたが、うちのあすなろ学園、今、そういう市町の方に来ていただいて、半年又は1年研修を受けていただいて、それぞれ市町に戻って体制構築をしていくという人材育成をやらせていただきました。四日市市さんの保育士さんも積極的に研修を受けていただいたと聞いていますので、そういう形での専門性のアップ、あるいはシステムアドバイザーというのがあるのですが、その養成については、我々もしっかりこれからもしていきたいと思っています。

一方でハード整備ですが、今、市町が設置するあけぼの学園のようなセンターについての国庫補助の制度は補助対象外となっています。県単独での支援については、今のところ、財源などの課題があって難しい状況があります。したがって、ハードのほうは少し難しいと思いますが、ソフトの面で今申し上げたような引き続きの支援と充実を図っていく。一人ひとりの発達において障がいを抱えた子どもたち、そして、その親御さんたちが安心していただけるような対応を県としても、四日市市さんと相互に連携して県全体としての総合力を高めていくということができればと思っています。

四日市市長

特に専門性を持った医師の確保が一番大きな課題でありまして、知事から民間の医療機関とのネットワークの利用の提案がありましたので、どうやって利用者の方に少しでもよりよいサービスを提供できるような体制を構築するかと、その辺について知恵もお力もぜひ貸していただきたいと思っています。今後また協議を続けさせていただきますので、よろしくお願いします。

3 都市制度改革に伴う中核市への移行について

四日市市長

次に都市制度改革に伴う中核市への移行について発言をさせていただきます。

これは、昨年も発言をいたしました、状況の変化もありましたので再度、発言をさせていただきます。

四日市市では総合計画におきましても、中核市への移行を明確に位置づけておりますし、三重県初の中核市に早い時期に移行して、都市としての実力を蓄えて、名実共に北勢地域における中核的な自治体としての役割をしっかりと果たしていきたいと考えております。

こういう中で、先月6月25日に内閣府の審議会である第30次地方制度調

査会におきまして、大都市制度の改革及び基礎自治体の行政サービス体制に関する答申がなされました。この答申の中に中核市制度と特例市制度を統合して、人口 20 万人以上であれば、保健所を設置することによって中核市となるということが示されております。これに伴いまして、移譲される事務につきましても、法令で定めるものと地域の実情を踏まえた対応をするものと 2 つあると伺っております。

四日市市では平成 20 年度から保健所政令市という形で、県からも支援をいただきながらですが、保健所として実績を積んでおります。この答申を受けて、今後、地方自治法の改正がなされるのではないかと思います。新しい制度ができましたら、その新制度による中核市要件を四日市市は満たしていると考えられますので、この法律改正に即座に対応して、新しい制度の適用を受ける形で円滑な中核市への移行ができるような具体的な協議を、この法律改正の推移を見ながらお願いしたいと思っております。状況の変化ということで、再度、確認の意味でお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。

知 事

田中市長が就任以来、2 期目も含めて市民の皆さんにお約束をされ続けてきた中核市への移行という点について、今回の制度改正でニアイズベター、つまり、住民に近いところでいろんな権限を持ってもらって、そこで事務をやっていこうという考えに沿う形で、四日市市にとってはまさに風が来たという感じだと思います。我々もそういう意味では、こういう地方制度調査会の答申が出されたことを非常に喜んでるところであります。

以前から四日市市が中核市に移行される場合においては、県としてもしっかりとサポートしていくという旨を申し上げてきたところです。今、市長からもおっしゃっていただいたように地方自治法の改正が今回の答申の内容に沿ってなされていくと思います。時期的に次の通常国会なのか、臨時国会みたいなところへ出していくのか、それは今回の選挙を終えて、その後の内閣改造があるかもわかりませんが、そういう情勢の中で変わってくるだろうとは思いますが、我々県としてもまず、答申どおりしっかりと法制化が早期になされるようにという働きかけを四日市市と一緒にしていきたいと思っております。先ほど市長からも発言がありましたように保健所を設置して 5 年の実績もありますから、答申との関係では四日市市は要件を満たしているのです、四日市市がその法制化の働きかけを我々と一緒にしていただいて、さらに、その法制化後も四日市市が適用されることに向けての国に対する働きかけも一緒にしていきたいと思っております。また、それと並行して、実際にどういう事務をしていただくか、どういう権限を持っていただくのかということについても議

論したいですし、さらに、それを円滑に移譲できるよう、人的、財政面での
いろいろな議論、サポートを一緒にしていきたいと思っておりますので、よろ
しくをお願いします。我々も総務省に対していろいろな働きかけの場面もありま
すので、まず、法制化についての提言、働きかけをしっかりとしていきたいと
思います。

4 国体を見据えた総合体育館整備について

四日市市長

この点も昨年に引き続きですが、国体開催を視野に入れた総合体育館の整
備についてということですが。正直言って県も非常に財政が厳しい中で、何
を言っておるんやと思われるかもしれませんが、それなりの意義を四日市市
としても見出して、ぜひ県の検討をお願いしたいという趣旨で発言をしま
すので、よろしくお願いします。

平成33年の三重国体、全国障害者スポーツ大会に向けて、四日市市とし
ましても体操競技やサッカー、テニスとか数種目の競技を誘致したいと考
えて準備をしておるところですが、新たな施設整備が、大変財政的な問題も含
めて課題になっております。

そんな中で、特にこういう人口が集中しております北勢地域に全国レベル、
あるいは東海ブロックぐらいのレベルの大規模な公式の競技大会のできる
体育館、具体的に言いますとアリーナの面積が2,500m²以上、観客席が3,000
席以上といった想定ですが、そういう総合体育館が一つもないという状況に
あります。

四日市市のスポーツ施設の利用者数は、年間で約99万7,000人というこ
とでありまして、これは県内の主な県営スポーツ施設の利用者の合計の100万
人とほぼ同数にあたっています。私は、これだけの多くの方が四日市市のス
ポーツ施設を利用いただいていることは、交通アクセスが非常にいいと
いう点の一つ、それから、宿泊施設が充実をしている、こういった条件面、
環境面で非常に集客能力が高いと、県内で最も高いと言ってもいいぐらいで
はないかと思っております。名古屋から近いということもありまして、非常
にこの点については四日市市が優位性を持っていると考えております。

その中でも、中央緑地につきましては、市の中心部からのアクセスなどを
考えましても、立地条件としては抜群の条件を備えておりますし、四日市市
としては、この中央緑地の中に、先ほど言いましたようなクラスの大規模な
公式競技大会が開催できる体育館を中心にスポーツ施設を整備することが、
極めて費用対効果から考えても効果が大きいと考えております。

元々、これは私、県議会議員のときに北川知事に一般質問で申し上げたこ

とですが、県内では中勢・南勢・伊賀、どの地域もスポーツあるいは文化の大きな県営施設が立地している中で、北勢地域にはないと。北勢地域は県税の負担も一番大きい人口の集中している地域であるにもかかわらず、北勢にそういう県営のスポーツあるいは文化施設がないことについて、永年、住民の方は不公平感を持っていると言っても私は過言ではないと思っております。

ぜひ、三重国体という大きな三重県全体の目標に向けて、三重県全体のスポーツの振興を図るという意味でも、あるいはスポーツ観光という視点でも、活性化を図るためにこういった施設が北勢に必要だと思っております。本当に繰り返して恐縮ですが、三重県の競技スポーツの振興の拠点となる総合体育館を、県営施設という形で整備していただくことを、中長期的な視点でぜひ前向きに検討していただくようお願いしたいと思っております。

知事もなかなかお答えがしにくいかと思いますが、よろしく申し上げます。

知 事

国体の施設の考え方としましては、一応基本方針では、まず一つは、県内の既存施設を活用することを原則としましょう。したがって、新しく非常に大きな国体のために何か施設をつくるのはやめましょうと。

一方で既存施設の整備を行う場合は、真に必要な施設に限定するとともに、大会後も地域住民に広く活用されることに配慮しようという基本方針を一昨日、市長にも出ていただきました準備委員会の中で基本方針を決めさせていただいているところです。

さらに、三重県のスポーツ施設整備計画、この3月に策定しましたが、この中で市町が広域的拠点施設として施設を新築又は改築する場合に、補助の対象として一定の支援を行うというのも整備計画で決めたところでもあります。

この国体の施設整備に対するこの補助制度みたいなものは、今の国体のそれぞれ先催県の例でいくと、5年前に制度創設と。5年前がちょうど内定の時期なので、したがって平成28年度にこういう市町の整備に対して、県がこういう補助をしますという制度を5年前に一応出すことになっていますので、そういう意味で現時点において、こんな感じでいきたいと思いますので申し上げるのはなかなか難しいのですが、今、市長がおっしゃっていただいたような公益的な施設として活用できるか否か、そして、整備後も地域住民の皆さんに利用していただくことができるかどうか、そういうことの中身を少しいろいろ議論させていただきながら、今後、補助制度をつくる28年度までに向けて議論させていただければと思っておりますので、そういう形で少し相談をする中で、ポイントは今申し上げたような広域拠点かどうかということ。それから、整備を行っても大会後も広く地域住民に使っていただける施設かどうか

ということが大きなポイントだと思いますので、そういうあたりでよく議論させていただければと思います。

四日市市長

平成 28 年度に向けというお話でした。この北勢に公式の少し規模の大きな競技大会のできるような総合体育館ということは、永年にわたってこの地域の住民の要望でもありますし、知事がおっしゃったような広域的な拠点という意味も当然持っています。きっかけはこの国体であっても、未来に向かってこの地域のスポーツの振興という意味合いで多くの方に利用していただける施設であるという確信もしておりますし、未来に向けての北勢のスポーツ振興ということは、三重県全体のスポーツの振興、活性化にもつながると思います。ぜひ、完全に否定ということではなくて、当然市のほうも一定の役割を果たすのはもちろん必要だと思っておりますし、どういう形で市と県のほうで役割分担をしながら、連携をしながら進めていくかということについて、継続的に協議をしていただければ大変ありがたいと思っております。

4 点、要望的お願いばかり続きましたので、知事も耳にタコができたのではないかと思いますので、最後に、要望ではなくて、県と市が連携して進めて行ったらどうかと思っている、特に観光の視点での取組を提案させていただきたいと思っております。

三重県では今年度から三重県観光キャンペーンを張っていただいて、10 月の伊勢神宮の式年遷宮を見据えて非常に精力的に観光に関する事業を展開されている、そのことには深く敬意を表したいと思っております。

先日、三重県の観光キャンペーン推進協議会に、私も副会長という大役を仰せつかっておりますので、出席をさせていただいて、正直びっくりしました。非常に事業も盛りだくさんで予算もかなり付いておりましたので、知事の本気度がしっかり分かりましたので、私も副会長として三重県の観光推進の一助となるように全力で取り組んでいきたいと思っております。

先月、首都圏営業拠点の名称が「三重テラス」と決まりました。四日市市としてもこの三重テラスを活用させていただいて、地元の産物やいろいろな観光的な魅力も含めて P R や販売促進をぜひやっていきたいと思っております。

四日市市は、元々ご存知のようにコンビナートと工場の町というイメージが非常に強く残っておって、それはそれで決して悪いことではないですが、それだけでは都市としての魅力に欠けると考えて、産業の活性化は一つのまちづくりのベースとして考えながら、例えば文化とか観光とかそういった面

の四日市市の新しい魅力を創造して、あるいは発信をして、四日市市の風格のあるまちづくりも同時にやっていきたいと考えています。今、『元気な産業と輝く文化のまち』というテーマを設けて、現在のイメージを脱皮していくための様々な新しい事業をスタートしたところです。一昨年(平成23年)に、その一環として、四日市市の観光元年の宣言をいたしましたし、昨年は四日市市の文化力元年の宣言をして、観光・文化にこれまでにない力を入れていこうということで、今、順次、進めております。この観光の視点で四日市市と県が協力・連携をして取り組むことによって、より効果が高まって相乗効果が出るような事業を具体的に提案をさせていただきたいと思っております。

1つ目は、『四日市エコロジー・インターナショナル』と呼んでいる取組です。これはどういうものかと言いますと、環境関連の学会とか大会とかイベント行事を誘致する際に、四日市市の公害を改善してきた経験を生かして、今、平成26年度の開館をめざして博物館の中に「(仮称)四日市公害と環境未来館」の整備を進めておりますが、この施設であるとか、非常に好評を博しておりますコンビナートと港の夜景クルーズであるとか、鈴鹿山麓とか里山とか、あるいは茶畑、ふれあい牧場といった自然景観も合わせて四日市市の地域資源、魅力を組み合わせて、こういう観光的な要素を加味した体験型の見学会であるエクスカッションとを学会とか大会に組み合わせて提供できればと思っております。

こういう四日市市としての魅力・特徴を最大限に生かした付加価値を高めた内容で学会なり大会なりイベント、コンベンションの誘致を進めていく中で、県の観光戦略とうまく整合性を取って連携を強化していくことができれば、三重県への来訪者が飛躍的に増えていくのではないかと期待をしております。ぜひ、県と市のコラボレーションについて、今後、こちらからも具体的な事業として提案もさせていただきますので、協議に応じていただければ大変ありがたいと思っております。

それから、2つ目が、長くなって恐縮ですが、「No.ナンバー43プロジェクト」というものであります。これは四日市市の観光戦略会議から出てきた提案ですが、四日市市の四と三重県の三を意味する謎の数字と申しますか、「43」をアピールしていこうという取組です。例えば近鉄の四日市駅の1階のコンコースに、昨年、四日市市の観光案内所として「四十三茶屋」と書いて「よそみぢやや」と読みますが、少しおもてなしの心をそこに詰めたというか、そういう茶屋を開設して、「43」のプロジェクトのスタートになったわけです。

今後、中心市街地の飲食店にこの「43」という数字を記した提灯を掲げたりして、「43」という数字をじわじわと地域の人や、あるいはよそから来て

いただいた来訪者に浸透させていきまして、四日市市や三重県の産品やいろんな魅力と連動させることによって、「43」という数字、これ何だろうと考えていただく。その後、いろんなものと結びついて四日市市と三重県を意味することかということを知ってもらう。そういう趣旨で「43」という数字を打ち出していけば、連想ということで三重県なり四日市市の産品のブランド化していくうえで一つのツールになるのではないかと考えて、この「43」という数字の連携についても、ぜひお願いしたいと思います。

最後に、これは本当に私の思いつきに近い発想で恐縮ですが、今、三重県内にもゆるキャラがたくさん出てきて、どの地域にどんなゆるキャラがあるかというのを、例えば四日市市でも5つか6つありますが、市民の皆さんが知っているのは「こにゅうどうくん」ぐらいであまり知られてないんですね。三重県中集めれば相当の数になるし、県民の皆さんに周知するという意味もあって、例えば県内のゆるキャラが一堂に会するようなイベントを開催したらどうかというのが一つと、三重県版のB-1グランプリのようなイベントの開催を、津市で開きますと、なかなか来にくいですから、例えば、北勢、中勢、南勢、伊賀、これぐらいの地域のブロックに分けて、今年は津市、今年は四日市市、今年は伊賀市とかそういう形の持ち回りで県版のB-1グランプリを開催することで、三重県にどんなB級グルメがあるのかということを知っていただいて、広くそれを周知することによって、知っていただいたうえで、今、観光キャンペーンで発行していただいている「みえ旅パスポート」ですか、あそこに三重県のB級グルメをどこどこへ行って、例えば亀山のみそ焼きうどんを食べたら、その店でスタンプを押してもらって、それが特典をいただくことに結びつくような試みもやっていけば、私は三重県全体の地域の、先ほどのゆるキャラも含めて、魅力の周知を図り、それが同時に三重県中の住民が交流することによって三重県の活性化にもつながる効果が出るんじゃないかと考えました。まだ全然詰めてない、本当に思いつきの発想ですが、一度、県の担当部局で検討していただけると大変ありがたいと思っています。

もし、知事の感想がありましたらお願いします。

知 事

まず、一つ目の四日市エコロジー・インターナショナルの関係ですが、学会とか大会とかそういうのを誘致するのは非常にいいと思いますし、観光でというだけじゃなくて、そういう学会や大会みたいなので来ていただいて、それにちょっと寄り道して観光もしてもらってというのが、結構、特に四日市市とか向いていると思うし、いいと思うんですね。なので、こういうイベン

トの誘致は結構情報収集の段階からみんなでアンテナを高く張らないといけないので、我々もアンテナを張って、ICETTなんかもありますし、そういう形でこれは非常に四日市市のアイデンティティーとしてこれから環境をとということで、僕は非常にいいと思うので我々が協力できることをしっかりやっていきたいと思えます。

それから、「ナンバー43 プロジェクト」については、非常にこういう特色ある、「これなんやろ？」と思うようなプロジェクトというのは非常におもしろいと思うので、観光キャンペーンで半年ごとにガイドブックも作り直していきますので、今は第一弾をやっていますけど、次、第二弾とかそういうのに向けて観光キャンペーンの中でどういう連携ができるのか、ぜひ検討をさせていただきたいと思えます。

それから、ゆるキャラを一堂に集めたイベントの関係ですが、これ、実は僕自身も腹案がありまして、ここではまだ発表できないですが、数日前にうちの担当に指示したところでありまして、「乞うご期待」ですが。

一応三重県の中では、分かっているだけで約100のゆるキャラがあります。うちの県庁のホームページのトップページにそれぞれ北勢や中南勢のゆるキャラを見られるようにしてありますので、そういうのもっと周知したり、あと、うちの知事室のところに三重県中のゆるキャラの人形が置いてありまして、なぜか夕張のメロン熊だけその中に一つ隠れているのですが、そういうのも発見してもらおう楽しみなんかもやりながら。

ゆるキャラについては、この前も山形県知事に来ていただいたときも、モビラーの関西でやらせていただいたときも、「こにゅうどうくん」に出てきてもらいましたが、やっぱり人気が高いですもんね。

僕も、「くまモンの秘密」という本も読みまして、ゆるキャラについて相当研究を重ねているのですが。受けるゆるキャラと受けないゆるキャラとあって、そういうのもいろいろありますので、今、市長からもゆるキャラを活用せないかんというご示唆をいただきましたので、自分もやるしかないなあという腹案を実現するとき、また事前にももちろんいろいろ相談させていただければと思えますので、よろしくお願ひします。

B-1グランプリの関係は、今度、名張でやってもらったり、亀山が今月の中旬ですか、みそ焼きうどんサミットをやったりするなどで、少し気運も盛り上がってきていますので、元々はそういうB-1の中日本大会とかを呼んでこよとかいろいろな気運もあったのですが、少しいろんなイベント等の整理もしながら、いずれにしてもB級グルメが一堂に会するような場面については、ご提案もいただきましたので、担当部局でよく検討をしたいと思えます。

四日市市長

ゆるキャラに関するイベントの提案をさせていただいたら、早速、知事に腹案があるということですので、大変期待をしておりますので、また情報をいただければと思います。

それから、コンベンションの誘致について、私が市長に就任してから四日市市での全国規模あるいは東海規模の学会、大会が非常に多くなってきてありがたい話です。そのイベント・大会をただ単発で終わらせて帰っていただくのは大変残念で、もったいないと思っていますので、地元の市長としての私の挨拶の中で、四日市市の地元の産品や魅力をPRをしているのですが、もう少しアピールできるようなものを組み合わせたいと思っています。その一つが、先ほど言いましたような体験型見学会のエクスカージョンなんですね。これをぜひなるべく早い時期に具体的な実施に至るように検討を深めていきたいと思っていますので、ぜひ、県の他の観光拠点なんかも含めて、どうやって組み合わせをしていくかということも含めて、またいろんなことを教えていただきながら、ぜひ実現していきたいと思っています。その点、ぜひよろしく願いいたします。

(3) 閉会あいさつ

知 事

田中市長、ありがとうございました。また、傍聴の皆様もありがとうございました。

今日は4つ、最後の提案を含めると5つのお話をさせていただきました。中長期の課題もあれば、当面すぐに取り掛からなければならない課題もあるなどいろいろ多岐に渡りましたが、今後に向けて進んでいく、そんな時間になったのではないかと考えておりますので、引き続き、今日お話をさせていただいたこと、事務的にもしっかり詰めながら進めていきたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。今日はどうもありがとうございました。